

卓越大学院プログラム 事後評価調書 プログラムの基本情報 〔公表。ただし、項目12、13については非公表〕

機関名	千葉大学		採択年度	令和元年度	整理番号	1902
1	プログラム名称	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム				
	英語名称	Applied Humanities Program for Cultivating Global Leaders				
	ホームページ (URL)	https://jinbun-takuetu.chiba-u.jp/top/index.html				
2	全体責任者 (学長)	ふりがな 氏名 (職名)	<small>※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるものは基幹大学）の学長名に下線を引いてください。</small> よこて こうたろう 横手 幸太郎 (千葉大学長)			
3	プログラム責任者	ふりがな 氏名 (職名)	うちやま なおき 内山 直樹 (千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門哲学講座・教授、人文科学研究院長)			
4	プログラムコーディネーター	ふりがな 氏名 (職名)	よねむら ちよ 米村 千代 (千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門社会学講座・教授、大学院人文公共学府長、人文社会科学系教育研究機構長)			
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域			
		関連する領域(1)【任意】	④世界の学術の多様性を確保するという観点から我が国の貢献が期待される領域			
		関連する領域(2)【任意】				
		関連する領域(3)【任意】				
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	A			
		最も関連の深い区分 (中区分)	3	歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野		
		最も関連の深い区分 (小区分)	3030	アジア史およびアフリカ史関連		
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	J			
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】				
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】				
7	授与する博士学位分野・名称	博士 (文学) または博士 (学術) または博士 (公共学)				
8	学生の所属する専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	千葉大学大学院人文公共学府人文科学専攻、千葉大学大学院人文公共学府公共社会科学専攻、千葉大学大学院人文公共学府人文公共学専攻、千葉大学大学院融合理工学府数学情報科学専攻、千葉大学大学院融合理工学府創成工学専攻、千葉大学大学院総合国際学位プログラム、千葉大学大学院情報・データサイエンス学府情報・データサイエンス専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科日本・アジア文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科人間社会文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科社会文化学専攻、長崎大学大学院多文化社会科学研究科多文化社会学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部現代社会人間学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部文化学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部人間・社会科学専攻、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース				
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※ 該当する場合には○を記入</small>	10 本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 <small>※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。</small>				
連合大学院		共同教育課程	12			
11 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)						
岡山大学大学院社会文化科学研究科日本・アジア文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科人間社会文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科社会文化学専攻、長崎大学大学院多文化社会科学研究科多文化社会学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部現代社会人間学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部文化学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部人間・社会科学専攻、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース、国立歴史民俗博物館、浙江工商大学東方語言文化学院、ロシア人文大学東洋古典学研究所、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団、株式会社JTB総合研究所、千葉銀行、京葉銀行、株式会社日本総合研究所、株式会社ニッセイ基礎研究所						

[公表]

14 プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	17/20 (割合)
1	内山 直樹	ウチヤマ ナキ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門哲学講座・教授、人文科学研究院長	博士 (文学)	中国哲学	全体統括	3
2	米村 千代	ヨネムラ チョ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門社会学講座・教授、大学院人文公共学府長、人文社会科学系教育研究機構長	博士 (社会学)	家族社会学 歴史社会学	各プログラムの取りまとめ、企画運営委員会委員長	3
3	山田 賢	ヤマダ マサル		千葉大学国際未来教育基幹・人文科学研究院特任教授	博士 (文学)	中国史	副プログラムコーディネーター アジアユーラシアプログラム担当 (中国)	8
4	酒井 啓子	サイイ ケイコ		千葉大学国際高等研究基幹・特任教授	博士(地域研究)	国際関係論、中東・イラク政治	副プログラムコーディネーター、アジアユーラシアプログラム責任者、アジアユーラシアプログラム担当(中東地域 グローバル関係論)	1
5	小澤 弘明	オザワ ヒロアキ		千葉大学理事(教育・国際担当)	国際学修士	歴史学 国際関係論	副プログラムコーディネーター、Digital Humanities 2.0プログラム責任者	1
6	栗田 禎子	クリタ ヨシコ		千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門図像情報史学講座・教授	博士 (学術)	現代史 中東地域史	アジアユーラシアプログラム担当 (中東・イスラーム地域)	1
7	小谷 真吾	オガニ シンゴ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門文化人類学講座・教授	博士 (学術)	生体人類学	アジアユーラシアプログラム担当 (東南アジア)	1
8	児玉 香菜子	コガマ カナコ		千葉大学大学院人文科学研究院日本・ユーラシア文化研究部門ユーラシア言語文化論講座・教授	博士 (文学)	文化人類学 環境人類学	アジアユーラシアプログラム担当 (モンゴル)	1
9	大森 雅子	オオモリ マサコ		千葉大学大学院人文科学研究院国際言語文化学研究部門比較文化論講座・准教授	Ph. D. 博士(学術)	ロシア文学	アジアユーラシアプログラム担当 (ロシア)	1
10	石戸 光	イシド ヒカリ		千葉大学大学院国際学術研究院総合国際学講座・教授	Ph. D. 博士 (学術)	国際経済論	アジアユーラシアプログラム担当 (東南アジア：千葉大学バンコク・キャンパス 実践的フィールド教育)	1
11	倉阪 秀史	クラサカ ヒデアキ		千葉大学大学院社会科学研究院政治学・政策学研究部門公共政策学講座・教授	経済学学士	環境政策論 環境経済論	アジアユーラシアプログラム担当 (広域比較)	1
12	高 民定	タカ ミンジョン		千葉大学大学院国際学術研究院総合国際学講座・教授	博士 (学術)	社会言語学、日本語教育、韓国語教育	アジアユーラシアプログラム担当 (東アジア、異文化間言語接触)	1
13	高光 佳絵	タカミツ ヨシエ		千葉大学大学院国際学術研究院総合国際学講座・教授	博士 (法学)	国際政治史	アジアユーラシアプログラム担当 (環太平洋国際政治、デジタル化資料論)	1
14	福田 友子	フクダ トモコ		千葉大学大学院国際学術研究院総合国際学講座・准教授	博士 (社会学)	国際社会学 移民研究	アジアユーラシアプログラム担当 (アジアユーラシアにおける移民の国際社会学)	1
15	Julian Biontino	ユリアン ビオンティーノ		千葉大学大学院国際学術研究院総合国際学講座・助教	博士(歴史教育)	日韓関係史	アジアユーラシアプログラム担当 (東アジア国際関係史、ヨーロッパのアジア研究)	1
16	竹内 比呂也	タケウチ ヒロヤ		千葉大学大学院人文科学研究院日本・ユーラシア文化研究部門日本語文化論講座・教授、副学長	文学修士	図書館情報学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(人文情報学)	1
17	傳 康晴	デン ヤスハル		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・教授	博士 (工学)	コーパス言語学 認知科学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(データサイエンス)	1
18	阿部 明典	アベ アキリ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・教授	博士(工学)	知的情報処理(人工知能)	Digital Humanities 2.0プログラム担当(データサイエンス、AIに基礎づけられた俯瞰力の獲得)	1
19	松香 敏彦	マツカ トシヒコ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・教授	Ph. D.	認知科学 認知計算モデル	Digital Humanities 2.0プログラム担当(データサイエンス)	1
20	牛谷 智一	ウシタニ トモカズ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・准教授	博士 (文学)	認知科学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(データサイエンス、AI基礎)	1
21	荒井 幸代	アライ サチヨ		千葉大学大学院工学研究院総合工学講座・教授	博士 (工学)	分散人工知能 自律分散システム	Digital Humanities 2.0プログラム担当(データサイエンス)	1
22	樋口 篤志	ヒグチ アツシ		千葉大学環境リモートセンシング研究センター統合解析部門・教授	博士 (理学)	水文学 衛星気候学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(地球観測衛星データ解析)	1
23	小風 尚樹	コカゼ ノアキ		千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門図像情報史学講座・助教	修士 (文学)	Digital Humanities, 近代イギリス海軍史 (Master of Arts (Digital Humanities))	Digital Humanities 2.0(データサイエンス)	7
24	伊東 久智	イトウ ヒサリ		千葉大学人文科学研究院歴史学研究部門図像情報史学講座・准教授	博士 (文学)	日本近代史	アジアユーラシアプログラム担当 (東アジア近現代)	3
25	橋本 知子	ハシモト トモコ		千葉大学人文科学研究院国際言語文化学研究部門比較文化論講座・准教授	博士 (文学)	フランス文学	アジアユーラシアプログラム担当 (比較文化)	3
26	檜皮 瑞樹	ヒノカ ミズキ		千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門図像情報史学講座・准教授	博士	日本近世近代史	アジアユーラシアプログラム担当 (東アジア比較史)	1

14 プログラム担当者一覧（続き）							
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	パート(割合)
27	渡辺 安里依	ワタナヘ アリイ	千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・准教授	PhD	認知科学	Digital Humanities2.0プログラム担当（データサイエンス）	1
28	磯貝真澄	イソガイ マスミ	千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門歴史学講座・准教授	博士	中央ユーラシア近現代史	アジア・ユーラシアプログラム担当（中央アジア）	1
29	小林 洋介	コバヤシ ヨウスケ	千葉大学大学院人文科学研究院日本・ユーラシア文化研究部門日本語文化論講座・准教授	博士	日本文学	アジアユーラシアプログラム担当（比較文学）	3
30	大峰 真理	オホミネ マリ	千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門歴史学講座・教授	博士	西洋近代史・植民地史	アジアユーラシアプログラム担当（ヨーロッパ・国際交流）	1
31	白川 優治	シロカワ ユウジ	千葉大学大学院国際学術研究院総合国際学講座・准教授	修士	教育社会学	Digital Humanities 2.0プログラム担当（統計分析・カリキュラム開発）	1
32	崎山 直樹	サキヤマ ナオキ	千葉大学大学院国際学術研究院総合国際学講座・准教授	博士	西洋史学・高等教育政策論	Digital Humanities 2.0プログラム担当（統計分析・国際交流）	1
33	田草川 みずき	タガサカワ ミズキ	千葉大学大学院人文科学研究院日本・ユーラシア文化研究部門日本語文化論講座・准教授	博士	日本文学	アジアユーラシアプログラム担当（国際交流）	1
34	遊佐 徹	ユサ トオル	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・教授	修士（文学）	中国文学	アジアユーラシアプログラム担当（中国）	1
35	吉田 浩	ヨシダ ヒロシ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・准教授	修士（文学）	西洋史学	アジアユーラシアプログラム担当（ロシア）	1
36	土口 史記	ツチグチ シキ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・准教授	博士（文学）	中国古代史	アジアユーラシアプログラム担当（中国）	1
37	和田 郁子	ワタ イコ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・准教授	博士（文学）	南アジア、インド洋海域史	アジアユーラシアプログラム担当（南アジア）	1
38	西田 陽介	ニシタ ヨウスケ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・教授・学域長	博士（学術）	経営学	アジアユーラシアプログラム担当（経営学）	1
39	石田 友梨	イシダ ユリ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・准教授（特任）	博士（地域研究）	イスラーム思想史	Digital Humanities 2.0プログラム担当（人文情報学、データサイエンス）	2
40	北川 博史	キタカワ ヒロシ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・教授	博士（文学）	経済地理学、地域公共政策論、地域経済論	アジアユーラシアプログラム担当（地理学）	1
41	山本 秀樹	ヤマモト ヒデキ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・教授	博士（文学）	日本文学	アジアユーラシアプログラム担当（日本文学）	1
42	李 禎之	リ ヨシユキ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・教授	博士（法学）	国際法学	アジアユーラシアプログラム担当（国際法学）	1
43	中川 豊隆	ナカガワ トヨカ	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・教授	博士（経済学）	会計学	アジアユーラシアプログラム担当（会計学）	1
44	葉柳 和則	ハヤナギ カズノリ	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士（文学）	文化社会学文化史	アジアユーラシアプログラム担当（オランダ・ヨーロッパ）	1
45	木村 直樹	キムラ ナオキ	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士（文学）	日本近世史日蘭関係史	アジアユーラシアプログラム担当（オランダ・ヨーロッパ）	1
46	王 維	ワン ウエイ	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士（学術）	文化人類学比較文化	アジアユーラシアプログラム担当（東アジア）	1
47	小松 悟	コマツ サトル	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士（学術）	開発経済学環境経済学	アジアユーラシアプログラム担当（東アジア）	1
48	COMPEL RADOMIR	コンペル ラドミール	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士（国際経済法学）	比較政治学、沖繩近現代史、現代公文書研究	アジアユーラシアプログラム担当（東アジア）	1
49	南 誠	ナミ マコト	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士（人間・環境学）	歴史社会学国際社会学	アジアユーラシアプログラム担当（東アジア）	1
50	賽漢卓娜	サイハンジュナ	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士（教育学）	家族社会学、移民研究、ジェンダー研究、労働移動	アジアユーラシアプログラム担当（東アジア）	1
51	ギェルベヤズ アブトウルラッハマン	ギェルベヤズ アブトウルラッハマン	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士（人間科学）	記号論、言語学	アジアユーラシアプログラム担当（比較文化論）	1
52	森 元斎	モリ モトナオ	長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士（人間科学）	哲学、倫理学	アジアユーラシアプログラム担当（比較文化論）	1
53	野上 建紀	ノノミ タケノリ	長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士（文学）	近世考古学、水中考古学、陶磁史、海上交易史	アジアユーラシアプログラム担当（比較文化論）	1
54	才津 祐美子	サイヅ ユミコ	長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士（文学）	文化人類学・民俗学、文化資源、文化財・文化遺産、観光	アジアユーラシアプログラム担当（東アジア）	1
55	河村 有教	カムラ アリノ	長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・准教授	博士（法学）	刑事法学、基礎法学、新領域法学、法とジェンダー、アジア法	アジアユーラシアプログラム担当（東アジア）	1

14 プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	1/フォート(割合)
56	森川 裕二		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士(学術)	国際政治学、東アジア国際関係、国際関係理論	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
57	田村 康貴		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・助教	倫理学(博士)	倫理学、道徳哲学、道徳教育	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化論)	1
58	姉川 雄大		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(文学)	歴史学・ヨーロッパ近現代史	アジアユーラシアプログラム担当(東欧史・カリキュラム開発)	1
59	伊藤 正彦		熊本大学大学院人文社会科学部・教授・文学部長	博士(文学)	中国史	アジアユーラシアプログラム担当(中国)	1
60	稲葉 継陽		熊本大学文学部附属永青文庫研究センター長・教授	博士(文学)	日本史学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
61	鹿嶋 洋		熊本大学大学院人文社会科学部・教授	博士(理学)	経済地理学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
62	シンジルト		熊本大学大学院人文社会科学部・教授	博士(社会学)	社会人類学	アジアユーラシアプログラム担当(内陸アジア)	1
63	寺本 渉		熊本大学大学院人文社会科学部・教授	博士(学術)	認知科学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(データサイエンス、AI基礎)	1
64	牧野 厚史		熊本大学大学院人文社会科学部・教授	博士(社会学)	環境社会学 地域社会学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(地理情報システム)	1
65	山下 裕作		熊本大学大学院人文社会科学部・教授	博士(文学)	民俗学・農業農村工学(旧農学土木学)	Digital Humanities 2.0プログラム担当(GIS)	1
66	米島 万有子		熊本大学大学院人文社会科学部・准教授	博士(文学)	地理学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(GIS)	1
67	坂元 昌樹		熊本大学大学院人文社会科学部・教授	博士(文学)	日本文学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
68	西槇 偉		熊本大学大学院人文社会科学部・教授	博士(学術)	比較文学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア比較文学)	1
69	日高 愛子		熊本大学大学院人文社会科学部・准教授	博士(文学)	日本文学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
70	久保田 慎二		熊本大学大学院人文社会科学部・准教授	博士(文学)	中国考古学、東アジア考古学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
71	松浦 雄介		熊本大学大学院人文社会科学部・教授・社会文化科学教育部副教育部長	博士(文学)	文化社会学、国際社会学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
72	西谷 大		国立歴史民俗博物館考古研究系・教授・館長総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース・教授	博士(文学)	東アジア人類史	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア比較文化)	1
73	後藤 真		国立歴史民俗博物館研究部・准教授総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース・准教授	博士(文学)	人文情報学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(総合資科学)	1
74	江 静		浙江工商大学東方語言文化学院・教授・学院長	博士(古典文献学)	中日交流史	アジアユーラシアプログラム担当(中国現地プログラム)	1
75	Alexander N. Meshcheryakov		ロシア人文大学高等経済学院・東洋古典学研究所・教授	博士(歴史)	日本文化	アジアユーラシアプログラム担当(ロシア文化、日露文化交流)	1
76	安井 豪		イオン株式会社グループ人材育成部・部長	経営学修士(専門職)	-	アジアユーラシアプログラム担当(実践教育)	1
77	山本 百合子		イオン株式会社社長室シニアマネージャー公益財団法人イオン環境財団事務局・局長日本学術会議連携会員	博士(工学)	環境社会学	アジアユーラシアプログラム担当(実践教育)	1
78	郭 玲玲		株式会社JTB総合研究所コンサルティング第四部・主任研究員	修士(観光学)	インバウンドマーケティング、観光人材育成	アジアユーラシアプログラム担当(実践教育)	1
79	三木 秀治		千葉銀行法人営業部成長ビジネスサポート室・室長	経済学士	海外ファイナンス等	アジアユーラシアプログラム担当(中国市場)	1
80	太田和 佳孝		千葉銀行法人営業部成長ビジネスサポート室・副調査役 国際業務担当	経済学士	海外ファイナンス等	アジアユーラシアプログラム担当(中国市場)	1
81	吉口 克利		㈱JTB総合研究所「コンサルティング」事業部 主席研究員、千葉大学人文社会科学系教育研究機構・准教授(クロスアポイントメント)	博士(社会学)	観光学	アジアユーラシアプログラム担当(中国市場)	1
82	吉田 稔		㈱京葉銀行 執行役員法人営業部長	法学士	海外ファイナンス等	アジアユーラシアプログラム担当(中国市場)	1
83	池本 美香		株式会社日本総合研究所調査部・上席主任研究員	博士(学術)	子育て政策、教育政策	Digital Humanities 2.0プログラム担当(社会データ分析)	1
84	片山 ゆき		株式会社ニッセイ基礎研究所保険研究部・主任研究員	博士(学術)	中国社会論	アジアユーラシアプログラム担当	1

成果の概要【2ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

本プログラムの最も特筆すべき成果は、学内学外における連携ネットワークを新たな組織として発展的に定着させたことである。

・学内における特筆すべき成果は、融合理工学府との連携のもとに、**Digital Humanities**—人間の文化・感性の領域を扱う人文的データサイエンスの発想を、情報工学と融合させた大学院教育組織として定着させるべく、令和6年度より「情報・データサイエンス学府」を新設したことである。この新学府では、本プログラム責任者（当時）が企画段階から関わったほか、本プログラム担当教員6名が「人間・感性」専門科目群カリキュラムを担当し、人文的データサイエンスの発想が埋め込まれた教育課程を実現した。さらに、令和7年度には、本プログラム所属の人文公共学府博士前期課程学生が、当該情報・データサイエンス学府後期3年博士課程に進学するなど、本プログラムの教員・学生がともに、当該大学院教育組織の起動に貢献している。

・学外における特筆すべき成果は、令和7年3月、これまでの本プログラム連携機関である千葉大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学及び国立歴史民俗博物館に加えて、新たに新潟大学、金沢大学の参加を得て、人文社会科学系大学院コンソーシアムを成立させたことである。このコンソーシアムは、卓越大学院プログラムの成果を発展的に継承するだけでなく、さらにその基礎の上に、「人文社会科学系大学院教育のさらなる振興を図るとともに、その成果を広く我が国の人文社会科学系大学院に波及させ、もって我が国の人文社会科学系大学院における人材養成の高度化と幅広いキャリアパスの確立に貢献すること」（「人文社会科学系大学院コンソーシアムに関する協定書」第1条）を目的とする。7機関による当該コンソーシアム協定書は、各機関の学長・館長による署名を経て成立したものであり、当該コンソーシアムの事業は、各機関トップのリーダーシップによって担保される。当該コンソーシアムに基づいて、それぞれが培ってきた企業連携等を含む教育資源の相互融通が実現されたが、それらの措置を基礎として、さらに魅力ある大学院教育の再構築が可能である。

② 計画通り進んでいる事項

本プログラムは、申請段階において「アジアユーラシア研究」と「Digital Humanities (DH)」をカリキュラムの2本の柱に据えるとともに、それらを跨ぐキャリア養成、ならびに大学間連携・企業間連携の推進を構想していたが、これらは計画通り進んでいる。

・マルチキャリア養成にかかる教育は、プログラム発足当初より実施されていたが、これを明示化するために、令和6年度より「キャリアデザイン履修科目群」を新設し、講義形式の「プレ・インターン・プログラム」から、企業人との双方向的交流の場となるマッチング・イベント、そしてインターンシップや将来のキャリアを見据えた企業人メンターとの懇談など、キャリア教育の順次的ステップを構築した。

・アジアユーラシア研究とDH、さらに前掲キャリアデザインについては、連携機関の教育資源を結集した大学間共通化科目を6科目設置した。アジアユーラシア研究においては、それぞれ東アジア、カザフスタンなどの中央ユーラシアを中心に取り上げる2科目を開設し、新たに交流の始まったカザフスタンの研究者にも講演を委嘱するなど、幅広くアジアユーラシアをカバーしたほか、令和6年度には本プログラム大学院生9名が中国の連携大学、浙江工商大学に渡航して現地大学院生と研究交流を実現、東アジア交流についても所期の成果を上げることができた。また、DH教育については、令和6年度中に、人間文化研究機構の文部科学省委託事業「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」に基づく教育連携を開始、DHをめぐる多角的な連携と、それらに基づく教育プログラムの充実を実現することができた。

・4 大学1 機関が連携する本プログラムの特徴を活かして、連携大学教員の協働によって教育の質を担保する工夫、ならびに連携大学大学院生が切磋琢磨する環境の構築を実現することができた。プログラム大学院生が博士前期課程から博士後期課程に進学する際には、「ゲート審査」を実施し、ネイティブ・ランゲージ以外の外国語によるプレゼンテーション等の **QE** を実施するとともに、連携機関間で共有するルーブリックに基づく評価を行い、機関を越えて質保証を担保した。また、所属大学を越えて大学院生が交流できる機会を積極的に設けており、令和6年度には、対面交流6回、オンライン交流3回、計9回に及ぶ研究会、セミナー、インターンシップ、キャリア懇談会等の機会を設けた。

③ 改善が必要な事項

・令和5年度から令和6年度にかけて、プログラム責任者（当時）、及びプログラムコーディネーターが、すべての連携機関の学長・館長を訪問し、プログラム補助機関終了後の自走化に向けて持続的な財政支援を依頼し、理解を得たが、資源の確保に向けて、さらなる取組が必要である。企業連携の拡大は当然のこととして、傘下に多くの企業を擁する経済団体との連携に基づきながら、人文社会科学系大学院教育の改革を推進することで、資源の獲得に繋げていきたい。

・本プログラムは5年一貫の教育課程であるにも関わらず、博士前期課程から博士後期課程への進学率が高くはない。これは、博士後期課程修了後の就職不安といった人文社会科学系博士後期課程特有の事情が介在しているが、令和7年度には千葉大学博士前期課程2年次生5名のうち、4名が博士後期課程に進学するなど、状況は改善されつつある。この問題の抜本的な解決のためには、マルチキャリアのさらなる開拓を進め、大学院生の将来への不安を低減させていく必要がある。

④ プログラムとしての今後の見通し

本プログラムは、これまでに採択された卓越大学院プログラムの中でも希少な人文社会科学系のプログラムであり、とりわけ人文系中核としては唯一である。したがって、ただプログラムの自走化を図るだけでなく、さらなるネットワークの拡充によって、本プログラムの目的である人文社会科学系大学院改革を、我が国において波及的に実現することが重要であると考えている。

そのために、これまでの本プログラム連携機関に加えて、新潟大学、金沢大学を含む7機関にて新たに発足した人文社会科学系大学院コンソーシアムの体制強化と、さらには、コンソーシアムを中核とする連携ネットワークの一層の拡大が必要である。令和7年4月、コンソーシアム運営会議のもとに教務・キャリアパス・自己点検評価の3委員会を設置、教育資源の共有化とマルチキャリア教育の拡大に向けた組織体制を整備した。この基礎の上に、連携の更なる拡大と資源の共有化を通して、より魅力ある大学院教育課程の樹立を目指す。すでに令和6年度中に、一橋大学、お茶の水女子大学の人文社会科学系大学院キャリア教育担当の副学長、理事等と意見交換を行っており、これらの交渉を重ねながら、それぞれの大学院の強みを出し合った魅力ある教育プログラムや、人文社会科学系大学院に最適化されたマルチキャリア養成教育プログラムを樹立する。

一方、大学間連携ネットワークのスケールメリットを活かした経済団体との交渉を開始する。企業連携の拡大を継続していくことは当然であるが、同時に経済団体の高等教育連携担当部門との提携により、経済団体が傘下企業から集約した「求める人材像」を参照しつつ、経済団体の直接的参画により大学院教育課程にキャリアデザイン教育をビルトインしていく。そのために、令和7年5月、経済同友会高等教育連携 PT 事務局との協議を開始している。あわせて、大学間連携ネットワークと経済団体との、いわば多対多交渉ラウンドテーブルの設置を通して需要と供給の適切なマッチングを多角的に実施することにより、これまで相対的に低調であった人文社会科学系大学院におけるインターンシップの開拓、共同研究プロジェクトの開拓を推進する。

本プログラムは、以上のように、ネットワークの拡大を通して多様な資源を利用しつつ、大学間連携に基づく魅力ある大学院教育課程と、産学連携に基づくマルチキャリア養成教育プログラムを確立し、広く我が国の人文社会科学系大学院改革に資することを今後のミッションとして認識している。